

北海道札幌  
農科大學  
田三郎様親展





加



八日

大阪市西區南堀江通壹丁目  
勝本忠兵衛

高松冷相伝一の義合

の要候の所身取上、其

位におのり候所共、此

平之海河の海、此

書御も、此、此、此

此、此、此、此、此

此、此、此、此、此

此、此、此、此、此

此、此、此、此、此

此、此、此、此、此

此、此、此、此、此

此、此、此、此、此

此、此、此、此、此

此、此、此、此、此



是、向の如く出社迄の向か  
ぬ時と欠却と云ふ風は誠  
氏の自覚と促す考より  
昭々部也たる竹向の横  
置り社員一班の誹り  
為松君の如く彼の生意  
意なる者二大の爲と誠  
心は別れ馳同なりと  
主は河原屋の何れも此の  
秘苑子孫に大子也と  
是れのみをかし居るは  
一寸も氏の固執の  
亦其日出産祭りの多岐  
書向を定むる迄来たり

亦其日出集奈々の多此氏  
書面を定て近來おひ町  
をもちて又意ふこと其申  
は理法証候も数々あり改  
善の件も公ことあり志を  
白く致し申したるやとて  
案より之を一日日井出氏  
と改めり居候と書こし

(拙宅にて遊一も陪食)

御心の活しや、此夜七時  
二十分を歸來相成り因に  
海在甲の守女と名見の  
ことな、要はるに同遊

夫大足初め右佐のし様め  
より大に好御々一室の此に



と大足初め各社の小株助  
と大と好都合と運送の代り

以て此等々全業者十名計り

今合仕、其際一面り前

他の十名余会合の際等と

賤と衛実一と賤本加地

位とある様な場合とあるは

情本と對し様為業事等の

言等と以て大と同表あると

同時と合社と對して大と

的存通と様相誤確と成り

少由字の心付

之を新日報とあると判別

小色と等と必ら合衛実

去るとある様な意を

掲載したり

小生の身は必し人徳を

去るべき事なれば意を

揚動したり

之を以て皆映、察知の

居れり

為に於大々的の旨をせしむ

後今の中を馬廐にあり居り

之も他の友人が不知せが

る事とあり、此今監査役

福原俊九弟より書翰に

其

之を平代監査役と云極  
 懇意平代氏と小生と親  
 同情を有し小生と共に道  
 途を決する人あり  
 去る十三日重役名に福原  
 平代氏を証す

福原の少少の苦のさ

解甲居るに与りて

猶人志を強ふべし



新其の少き者なり  
解甲屏るる所あり  
猶人志と強ふ所あり  
要するに最上の軍勢なり  
心を最上の利便あり  
苟も此際々あり臨陣  
忍辱を能く経る事  
に功ありありありあり  
了す神の功ありありあり  
来月中に出来ぬ事あり  
大見井出文の可なり  
正印の文ありありあり  
上印の文ありありあり  
天降は、万の功ありあり



一

一

一

某月中之某日甲某

大兄并出女之百

正印白之出、

之河、

天降、

九、

時

少田大兄

親

一

安